

令和5年度 第10回 豊田市石野地域会議 会議録

開催日時	令和6年1月23日(火)	開会	閉会
		午後7時00分	午後8時30分
会場	石野交流館1階 多目的ホール		
出席者	地域会議委員：14名		
	会長：富田 和久 副会長：溝上 喜美男		
	委員：阿部 金一 宇野 文康 川井 正弘 川井 秀和 河原 美枝子 小池 伸二 小山 伸二 鈴木 敬樹 中田 実 松井 茂 三宅 乃婦香 森久 剛		
欠席者	2名(伊藤 充繁 藤村 信治)		
オブザーバー	豊田市議会議員：鈴木昌秋		
傍聴者	1名		
事務局	豊田市 鈴木副市長 企画政策部：都築副部长、企画課：丹羽副課長、都市計画課：西岡担当長 地域振興部：後藤部長 猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、宮石担当長、井沢主査		
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 豊田市民の誓い(唱和) 2. 会長あいさつ 3. 第9次豊田市総合計画策定に関する答申について <ul style="list-style-type: none"> ・副市長あいさつ ・答申書の授受 ・副市長との意見交換会 4. 新たな提言に向けた取組について 5. 令和5年地域課題解決事業：防災ソングのラフ完成について 6. 地域会議だより3月号について 7. 情報共有・事務連絡 		

■議事(要約)

会長あいさつ

市議あいさつ

3 第9次豊田市総合計画策定に関する答申

■副市長あいさつ

初めてですので、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は豊田市に来てまだ9か月余りということで、国土交通省からの出向という形で来ています。これまでの経験としては道路を中心とした行政を行ってきました。豊田市に出向で就職してから引越は14回目となります。直近は四国で高齢化の最先端地域で地域の課題を見させていただいた。元日に能登半島で地震があり、情報がまだ揃っていないので難しい

部分がありますが、豊田市も職員を派遣しています。1月1日の夜に消防、2日からは上水道、下水道の復旧、罹災証明の関係、建物の危険度判定など150人を超える職員を派遣しています。能登地震での多くの職員の活動経験を通して、豊田市の地震対策など災害・防災力を高めていきたい。本日は第9次豊田市総合計画（以下「9総」という。）の答申の中でこの地域をどのように進めていくかお聞きする中で意見交換をさせていただきたい。9総の検討については、審議会や学生などさまざまな団体から意見をいただき、今年度は意見を集めています、来年度はいただいた意見を計画にしっかりと役立てていきたいと考えています。本日よりよろしくお願いいたします。

■ 答申書の授受

会長から副市長に答申書を手交（概要を説明）

■ 記念撮影

■ 意見交換

（委員）

- ・ 今回の諮問は総合計画の構想の話で、どのように考えて提案していいか迷う内容だった。具体的な施策を考える段階で意見を言う場はあるのか。

（企画課）

- ・ 答申を受けて今いろいろな意見をお聞きしている段階だが、来年度は引き続き審議会で協議を進め、6月ごろに中間報告会として、計画の進捗について皆さんに報告し意見をお聴きする機会を設けたいと考えている。また、最終決定前にはパブリックコメントでも広く意見聴取させていただき、計画を完成させていく形である。

（委員）

- ・ 地域会議委員は一部を除いて高齢の方が多いが、年齢の高い人に意見を聴くだけではなく、もっと未来を見据えて中山間地域の若い人の意見をどう吸い上げていくのか。

（副市長）

- ・ 冒頭のあいさつでも少し触れたが、地域の大学生に意見を聴くなどいろいろな切り口で意見を伺っている。地域会議では地域での意見をまとめていただく形になるが、審議会では市外の学識者の方、当然市内の方も入って意見を聴いている。具体的なことは事務局からお話する。

（企画課）

- ・ 市内の大学や豊田北高等学校の学生との意見交換会などを設け伺っている。豊田市こども会議では小学生から高校生、大学生のサポーターも入っておりそういう場で意見を聴取している。ほかにも外国人の方などさまざまな方からの意見もお聴きし、計画にどう反映していくか検討している。計画そのものではないが、市民意見調査でも全市で6千人くらいの方からアンケートとして意見を取りまとめている。今回初めての試みで、シティボイスとしてインターネット上のWebやSNSなどからの意見聴取なども併せて行っている。

(委員)

- ・多岐にわたって意見聴取するということで安心した。個人的には豊田市は何となく田舎で、商業施設などいわゆるデートスポットが少ないと感じる。このままでは若い人が外に出て行ってしまうと危惧している。若い人の遊び場なども含めて都市整備を考えてほしい。

(副市長)

- ・定住をしてもらうためには、住まい、仕事、生活、子育て、介護など多岐にわたるテーマでどのようにすべきか今後詰めていく必要がある。言われるようにデートスポットについての話などが出ているのも事実である。

(委員)

- ・石野地区は中山間地ではっきり言って田舎に近いため、田舎の問題は多い。豊田市の都市部と中山間地では高齢化率や人口密度など条件が違う。どうしても都市部に着目した施策が多くなるが、中山間、山間地にも面積が大きく人口もそれなりにいるので、いつもそうした視点を持って施策を進めていただきたい。

この地域では高齢化が進んでおり交通の問題がある。免許証を返納すると身動きが取れない。高齢者が交通手段を確保できるように、バスの充実や自動運転を積極的に取り入れてほしい。また、インターネットを活用し、利便性や教育を向上させることは可能であると考える。

中山間地で農地の問題もあり、昔は農業地帯だったが農業が廃れてきて、農地も荒れてきている。山林も荒れてきて、がけ崩れや土砂崩れなどの災害の発生につながる危険性も高まっている。一部対応してもらっているが、多くの箇所が残っているのでそういったことにも目を配っていただきたい。

(副市長)

- ・自分は15年ほど前につくばの国土交通省の研究所で限界集落の研究を2年くらいしていた。地域の絆やつながりがある地域とない地域では、限界点が変わってくるということもある。四国では、南海トラフ地震の津波で5分以内に避難する計画をどうやって作るのか議論する中で、結局地域の特性とセットでないと器だけ作っても機能しないということもあった。個人的にも都市部ばかりという視点で仕事はしてきていない。その前にいた熊本県でも線状降水帯で球磨川が氾濫するという経験もしてきており、その中でどう避難するか地域のつながりを見てきたので、しっかり今後反映できればと考えている。

バスの問題は非常に難しく、豊田市は他の地域に比べれば本数も多く、料金も非常に安い。その一方で使ってもらわないと事業の継続が難しい。最近では大阪の方でもバス会社がドライバー不足で撤退するという話もある。公共交通として担うのか福祉施策としての輸送なのか、着目する視点についても通学など含めて考えていきたい。他の地域でもご意見をいただいているので、しっかりと検討していきたい。自動運転については、日本ではまだ技術水準が足りていない部分があるが、11月末から12月末まで市駅から豊田警察署前までまちなかで自動運転のバス運行を全

国の一つの実証として行っていた。人通りが多い中でどこまでできるのか取り組んでおり、そういった技術についてもチャレンジしていきたい。学校ではデジタル化でタブレットの利用も進んでいる。そういったツールを使うことで同級生の少なさをカバーするなど、他の地域と同水準の教育が受けられることが大切である。

農地については、以前に耕作放棄地をどうにかする手段はないか農林水産省に問い合わせたことがあるが、その時は宅地にしてくださいと言われた。そこから農林水産省もいろいろな施策を考えてきているので、補助金だけではなく、儲かる農業としていかないと継続性がない。そういう視点で考えていければと思っている。ただ、農地の相続など個人の課題があるので、そこは簡単ではないので勉強していければと思う。同様に森林の保護では地籍までしっかりしていないと災害復旧工事ができないので、しっかり進めていく必要がある。

(委員)

- ・豊田市の将来を心配している。今後、自動車産業でEV化が進み、全個体電池が開発されると、一気にガソリン車で必要だった部品が不要になることで事業所が減り、雇用がなくなり、人口が減っていくと想定される。市としては、EVに対してどのように考えているのか。

(副市長)

- ・トヨタ自動車のことで私からどうとは言えませんが、話を伺っていると全方位戦略で、ガソリン車、BEV、ハイブリッド車、水素燃料電池車などすべてに対応していくということである。EVシフトが先行している中国、欧州などでも現在EVの問題点が出てきており、万事うまく進んでいるわけではない。どういう方向に進んでいくかを注視しているというのが現状である。能登地震でもEVを非常電源として利用できるメリットもあれば、電池が切れてしまうとガソリンのように簡単に補充できないことがある。世界的な課題であるカーボンニュートラルの取組は市でも進めていきたいが、これ以上のことはなかなか言えない。

(委員)

- ・政府はハイブリッド車を作るなど言っているが、政府の規制が厳しくなるとトヨタ自動車は国外に出て行ってしまふこともあるのでは。

(副市長)

- ・水素社会の実現に向けて愛知県が進めている中で、沿岸部ではなく内陸部の自治体でどう活用するかを検討に豊田市も入っていくという表明を市長がしている。心配ばかりではなく、そうしたチャレンジを後押しできるように市としてもやっていきたい。

(委員)

- ・トヨタ自動車が無くなったら豊田市はダメになる。農業が盛んなので農業にいくのか、新しい産業を持ってくるのか、何か考えがあるのか。

(副市長)

- ・農業はもちろん取り組んでいかなければいけないが、産業についてトヨタ自動車が

なくなるという極論を議論していることはない。新しいベンチャーを支援し地域に根付くような企業が生まれてくる必要があると思うが、大きな話なので無傷ではいられないと個人的には思う。

(都市計画課)

- ・ 9 総の都市構造の 5 つの項目の中にも「産業」を掲げている。子供たちが将来働く場所が必要である。EV 対応についても、まとまった産業用地が必要であると聞いている。豊田市が持っている高速道路の 8 つのインターチェンジなどを活用しながら、産業については強固な基盤をつくっていききたいという考えである。

(委員)

- ・ 諮問の中に若手クリエイターとの連携をとという意見をださせていただいたが、市として文化的なことについて具体的に進めていこうという施策があるのか。

(副市長)

- ・ 橋の下音楽祭、矢作川の河川敷でキャンプなどいろいろなことをやりながら、名古屋から来やすい環境があるので、来てもらい交流を増やすことが大事だと思っている。市が仕掛けるのがいいのか、主催している人を支援するのがいいのか考えていく必要がある。

(企画課)

- ・ 今回の総合計画の中でも、こども達に夢や感動を与えられるようなものということで、スポーツ、文化など生のもを見て感動が伝わるなど、そういった視点を大切にしていきたい。今後、ミライ実現戦略の中でもそういった施策を盛り込んでいきたいと思っているので、ご意見をいただきたい。

(委員)

- ・ 矢作川漁協で働いていたときに、矢作川の河川敷で飲食やイベントをやる際など、堤防を使った試みを検討していて、構想の図面を見せていただいた記憶があるが、その後ずいぶん変わってきている。水辺を生かした取組や中央公園の構想など当時の考えはどうなったのか。

(副市長)

- ・ 豊田市駅からスタジアムまでの矢作川エリアは、かわまちづくりとして河川の活用とまちづくりをセットにした計画を国から認定していただいて、計画づくりを進めている。その中では河川の堤防に観客席やトイレを作るのが難しかったが、国にも応援してもらいながら計画を作っている。難しかったのは新型コロナが 3 年半程度あって、イベントの在り方については、一端止めて問題が起きないようにするにはどうすればいいかの議論を進めている。人が集まる雑踏における韓国の事件などを踏まえて、対策などを悩みながら進めている。飲食店についても、その辺りを気にしながら進めていただいたと思う。

コンパクトなエリアに自然環境と都市部がセットになっている魅力的な場所であるので、自然豊かな矢作川を大事に守りながら引き続き検討し、いい形で盛り上がっていったらと考えている。

(委員)

- ・今年度の豊田市開発審査会基準第18号の見直しに問題がある。見直しの見直しをお願いしたい。旗竿開発を規制されたため、開発できる土地が少なくなった。新しい住民を呼び込むために一生懸命やってきた農地があるが、連たんの規制でできなくなった。乱開発した地域もあるが、一律の規制ではなくもっときめ細かい基準でやってもらいたい。

(副市長)

- ・市街化区域と市街化調整区域は都市計画法で、市街化調整区域には新しく住宅を建てないというのが、法律の基本的な建てつけである。市が想定していないような開発が行われてきた実態があり、水道インフラを作り替えるには億単位の費用がかかる。人口が増えていく時代であれば、今のような開発もあったかもしれないが、考えていかないといけない。18号の見直しをしたが、どのような住み方がいいのか、住み方の手段としての定住策については別に考えていかなければならない。豊田市独自のものであり、それを許すことでコンパクトなまちではなくなり、バスに乗りにくい地域を新たに作ることになったり、山が荒れる原因になっていくこともある。見直しをやってもいらない中で変えるのはおかしい話である。

(委員)

- ・地域には、社会資本整備を行わなくても住宅を建てられる土地がまだある。石野地区はこれまで恩恵を受けてきた地域であるので、一律な基準はやめてほしい。

(副市長)

- ・計画的な開発ではなく、ミニ開発を行った場所では、私道が多くあって老朽化したものを維持できないという現状もある。将来的にどうあるべきかを考えた場合、地域の持続性を高めるために見直したため、一つのご意見として承っておく。

(委員)

- ・総合計画は豊田市全体の計画であるので、こんな書き方かと思う。石野地区は中山間地域で、前回皆さんと検討してきたが、少子化、耕作放棄地の問題など、どうにもならない課題が多いと感じている。中間報告、パブコメなどをして、どのように計画として見える化がされていくのか。

(副市長)

- ・諮問では昨年夏に新しいトレンドを集めながら、構想の途中段階で質問させていただいた。今回の意見を踏まえてミライ実現戦略では具体的に何をやるかがお示しできる。表現がわかりにくいということも言われているので、わかりやすい形で示せるようにしていく。

4 新たな提言に向けた取組

- ・各委員から出た意見を反映して修正した提言書案及びイメージ図について説明（資料3～7頁、当日資料）
- ・提言書で使用する写真の候補（資料8・9頁）

- ・さらに修正意見があれば、後日事務局まで提出
⇒会長・副会長と文言を調整して提言書の完成とする。

5 令和5年度の地域課題解決事業（防災ソングのラフ完成）

- ・地域課題解決事業で制作している防災ソングの歌詞と楽曲のラフができたため、委員に聞いてもらい意見を募集
 - ・これまで委員から出た意見などを参考に歌詞を作成（資料10頁）
 - ・令和6年2月3日にレコーディングを予定
 - ・ストーリーミングやYoutubeでの配信などを予定
- ※歌詞について意見があれば、2月3日までに事務局まで連絡するよう依頼

6 地域会議だより3月号

- ・地域会議だより3月号の案について事務局から説明（当日資料）
⇒意見なし、事務局案を承認

7 情報共有・事務連絡

- ・椎茸原木菌打ち体験のチラシ（自治区回覧、いこまい石野掲載）
令和6年2月10日（土） 午後9時30分から
広瀬駅前ひろば（名鉄三河線：旧三河広瀬駅跡地）

（次回の予定）

日時：令和6年2月27日（火） 午後7時から
場所：石野交流館 多目的ホール
内容：新たな提言に向けた取組